

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

A. コースワークの充実・強化

- ④社会人、留学生、他分野・他大学からの多様な大学院生に対応した基礎学力補完教育の実施やカリキュラムの提供

取組を進めるに当たり困難であった事例について

A. コースワークの充実・強化

④社会人、留学生、他分野・他大学からの多様な大学院生に対応した基礎学力補完教育の実施やカリキュラムの提供

《人社系》

●早稲田大学文学研究科人文科学専攻アジア地域文化学コース

「アジア研究と地域文化学」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

当初、本プログラムでは博士後期課程のみの「アジア地域文化学コース」の下に「修士課程」を新設し、学部卒の学生以外に、一般の社会人、キャリアアップのための社会人、外国人学生などを受け入れ、2009年度の学生募集を目指して計画を立てた。これは必ずしもそのまま博士課程には直結しない「独立修士課程」として構想されたもので、専門研究を極めるよりもむしろアジア地域文化に関する広い教養を修得させることを目指したものである。これも本プログラムの期間中には実現できなかった。準備期間の不足が原因である。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

本プログラムが採択された後、教養修得を目的とする「独立修士課程」の新設を目指したが、本プログラム期間中に実現できるかどうか、という時間的な問題に直面した。採択後にすぐカリキュラムを初めとする新設の準備を行い、翌年度の早い段階で入試要項に三年後の募集を掲載することは、他の複数の実施プログラムが同時に走っているため、容易なことではなかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

実現されなかった「独立修士課程」の理念を継承させ、それに代わるものとして、本学オープン教育センターの中の、とくに大学院生を対象とする「研究テーマカレッジ」に、「アジア学の名著を読む」という講座を開設して、3分野6科目を設置した。ここでいう「名著」とは、広く長く読み継がれてきたアジア学の入門書を指し、さまざまな研究分野の人たちが共通に読みあえ、かつ個別の研究分野にフィードバックできる古典のことである。これによって学内の研究科をこえてアジア学の基礎と教養を共有できる体制ができた。現在はまだ科目数が少ないが、今後さらに増やして行く予定である。

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

A. コースワークの充実・強化

- ④社会人、留学生、他分野・他大学からの多様な大学院生に対応した基礎学力補完教育の実施やカリキュラムの提供

《理工農系》

●奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科

「2 コース制によるバイオ人材育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

背景の多様な学生の基礎学力を一定水準に持ち上げるため、基礎知識レベル別の講義と演習を組み合わせることにより、4レベルのコースを実施した。また、アクティブラーニングや教育 IT 機器を導入することにより、一方向的な講義ではなく、双方向的な講義で学生の自主的な学習を奨励する方法を取り入れた。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

学生のレベルや背景が急速に多様化しており、全ての学生に対応するためにはさらに細分化したレベルのコースを設置する必要があったが、教員への教育負担が過大なものとなるため実施は現実的でなかった。また、アクティブラーニングや双方向的講義を導入したが、いまだに教員の習熟度が不足しており効果的な講義を多くするためには持続的な努力を必要とする。さらに大きな問題は、学生が大学院で初めてアクティブラーニングに接するため、不慣れで戸惑い講義についていけないものも見られた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

可能な限り12人程度の少人数による演習形式の講義とし、学生が自主的に学習し発言しやすい雰囲気を作るとともに、教員の負担を減らすことを試みた。また、演習講義での評価をRubricを用いて行い、Rubric表は学生に予め公開して講義の到達目標と評価の方法を明確にし、目的を持って講義に参加できるようにした。しかし、日本の大学までの教育の中でアクティブラーニングがより一般化しないと、有効性は限定的になる可能性がある。